

施策評価調書(5年度実績)

政策体系	施策名	構造改革の更なる加速	所管部局名	農林水産部	施策コード	Ⅱ-1-(1)
	政策名	挑戦と努力が報われる農林水産業の実現	関係部局名	農林水産部	長期総合計画頁	77

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	水田の畑地化による 高収益な園芸品目等への生産転換	全国トップレベルの肉用牛産地づくり (おおいた和牛日本一プロジェクト)	循環型林業の確立による 林業・木材産業の成長産業化	水産業の資源管理の強化と成長産業化
取組No.	⑤			
取組項目	スマート農林水産業の実現			

【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する 取組No.	基準値		5年度			6年度	目標達成度(%)																
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	25	50	75	100	125												
i 農林水産業による創出額(億円)	①②③ ④⑤	H25	2,134	2,577 (R4)	2,303 (R4)	89.4%	2,650 (R5)																	
	①②⑤ 農業産出額	H25	1,276	1,488 (R4)	1,245 (R4)	83.7%	1,534 (R5)																	
								①⑤ うち園芸	H25	574	713 (R4)	586 (R4)	82.2%	744 (R5)										
								②⑤ うち畜産	H25	414	532 (R4)	472 (R4)	88.7%	550 (R5)										
	③⑤ 林業産出額	H25	181	232 (R4)	232 (R4)	100.0%	240 (R5)																	
	④⑤ 水産業産出額	H25	386	450 (R4)	391 (R4)	86.9%	462 (R5)																	
	①②③ ④⑤ 付加価値額、交付金等	H25	291	407 (R4)	435 (R4)	106.9%	414 (R5)																	

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等	平均評価
i 達成 不十分	<p>R4年の創出額は、園芸・畜産で生産拡大や増頭が進んだことに加えて、養殖ブリの価格高騰等もあり、農業・水産の分野で産出額が上昇し、2年連続の増加となり、2,303億円(+43億円、+1.9%)となった。</p> <p>農業では、短期集中県域支援品目の面積拡大が進む園芸(586億円、達成度82.2%)や、若手生産者等による増頭が進む畜産(472億円、達成度88.7%)において産出額が増加するなど、大分県農業総合戦略会議の行動宣言が目指す園芸・畜産へのシフト等の改革が着実に進み、農業産出額が1,245億円と、3年連続の増加(対前年+17億円、+1.4%)となり、達成度は83.7%となった。林業では、R3に発生した木材需要高騰によるウッドショックからの木材価格の落ち着きから産出額が232億円(▲13億円、▲5.3%)と減少したものの、達成度は100%となった。水産業では、まき網の不漁によりイワシ類の漁獲量が減少した一方で、モジャコ不漁により養殖ブリの価格が高騰したことで水産業産出額は391億円(+29億円、+8.0%)と2年連続の増加となり、達成度86.9%となった。</p> <p>(農林水産業産出額の国の公表が約1年後となることから、R5年度の目標値・実績値にはR4年の数値を記載している。)</p>	達成 不十分

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・水田の畑地化による高収益な園芸品目等への生産転換に向けて、必要な生産資材等を支援した結果、目標を超える165haを転換できた。
②	・肉用牛ブランド化推進のため、PR大使を起用したSNSによる情報発信、販促キャンペーン等を行った結果、「おおいた和牛」取扱店が304店舗(+23店舗)に拡大した。 ・親元、独立就農を目指す者に対し、個別に施設整備計画や経営計画の作成を支援した結果、7人が本事業を利用して施設整備等を行った。
③	・木材の素材生産量の増加に向けて、施業省力化機械の導入や経営合理化に向けた人材育成などを支援するとともに、路網整備や施業地の集約化に取り組んだ結果、認定林業事業体の主伐生産性は10.8m ³ /人・日(+0.1)となった。
④	・昨年度整備した銅合金製浮沈式養殖生けすを用い、環境負荷を低減した養殖手法について検証するとともに、水中カメラや溶存酸素計を用いることにより、ブリの行動パターンの解析や水中での給餌が可能となった。
⑤	・「大分県スマート農林水産業推進方針」に基づき、各部門毎にICT等の先端技術を活用した生産性向上・省力化技術を推進した結果、スマート農林水産業技術の導入経営体数が663経営体(+17経営体)となった。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(5年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①	農地中間管理推進事業	117.6	166
	園芸産地づくり計画策定・推進事業	156.4	167
②	おおいた和牛流通促進対策事業	104.8	167
	肉用牛担い手確保総合対策事業	140.0	168
③	林業事業体強化推進事業	87.1	171
④	海洋環境保全型養殖推進事業	100.0	172
	資源造成型栽培漁業推進事業	97.5	172
⑤	スマート農林水産業技術普及拡大事業	102.0	174

【VI. 施策に対する意見・提言】

○第7回大分県農業総合戦略会議(R5.8) ・大分県農業総合戦略会議で取りまとめた行動宣言の着実な実行に向けて、具体的な取組を行っているが、今後は、さらに取組を加速させる必要がある。
--

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
B	<p>・農業総合戦略会議で取りまとめた行動宣言に基づき、着実に実行に移しているところであり、白ねぎや高精度かんしょなど短期集中県域支援品目の産地拡大の成果が出てきている。引き続き、生産者、農業団体、市町村一体となった取組をしっかりと後押しするため、産地拡大、担い手育成から営農指導、流通・販売強化、農協改革まで総合的な対策を講じ、農業の成長産業化を図る。</p> <p>・園芸では、短期集中県域支援品目の行動計画の達成に向けて、産地が抱えるボトルネックを解消する取組に対して、集中的かつ総合的に支援し、産地拡大や品質、単収の向上を進める。R6年度から急速に拡大した白ねぎの単収向上や調整作業効率化に取り組み、早期経営安定を図る。</p> <p>・畜産では、全国トップレベルの肉用牛産地づくりと耕畜連携の促進に向けて、担い手や規模拡大を目指す生産者の畜舎整備に対して支援する。また、繁殖牛の導入支援による生産基盤の強化を図るほか、全共における日本一獲得を見据えた取組を強化する。また、県内外で「買える・食べられる」店舗を起点としたフェア・キャンペーンの実施とともに、SNS等による情報発信の強化により「おおいた和牛」のブランド化を推進する。</p> <p>・林業では、循環型林業の推進に向けて、生産性の向上を目指す事業体に対し、高性能林業機械の導入の支援を行うとともに、早生樹造林の推進や造林作業の省力化、大径材の活用促進を図る。</p> <p>・水産業では、R6.11開催の全国豊かな海づくり大会を契機とした、漁船漁業の振興に向けて、機能強化した漁業公社の有効活用や、漁場環境整備・拠点放流・資源管理強化を一体的に行う新たな増殖モデルの構築を図る。養殖業ではブリの周年出荷に向けた人工種苗供給体制の構築や、ヒラメ養殖の自動給餌などスマート技術の導入、ブリ類の高次加工に対応した加工場整備など更なる成長に向けた取組を支援する。</p>